

アレルギー性気管支肺真菌症の治療のため診療を受けられた患者さんへ

福岡東医療センター 呼吸器内科では以下の研究を実施しています。

この研究は、過去の診療情報を振り返り解析する「後ろ向き観察研究」と呼ばれる学術活動です。過去に実施された検査の結果等の診療情報等を利用しますので、患者さんに新たにご負担いただく検査や治療はありません。また、学術論文や学会で公表する場合も、個人情報の保護には十分配慮し、第三者には誰のものか一切わからないようにします。

患者さんにはご自身の診療情報が使用されることを拒否する権利があります。本研究の対象に該当する可能性のある方で、情報を研究目的に使用されることを希望されない場合は下記の問い合わせ先にご連絡ください。既に学会や論文発表が行われている場合はデータを削除できない場合がありますのでご了承ください。なお、研究協力を拒否された場合でも、患者さんが診療上で不利益を被ることはありません。

【研究課題名】	アレルギー性気管支肺真菌症（ABPM）に対して生物学的製剤を使用した10症例の臨床的検討
【研究実施期間】	承認後より2024年4月30日まで
【研究実施期間・研究責任者】	独立行政法人国立病院機構 福岡東医療センター 呼吸器内科 研究責任者 中野 貴子
【対象となる方】	西暦2013年8月1日から2023年7月31日に福岡東医療センター呼吸器内科にてアレルギー性気管支肺真菌症の診療のため通院し、抗体製剤（ゾレア、ヌーカラ、ファセンラ、デュピクセント、テゼスパイア）の治療を受けた方
【研究の意義、目的、方法】	<p>【研究の意義】気管支喘息の難治化の原因の1つにアレルギー性気管支肺真菌症（ABPM）の合併があげられており、近年、抗体製剤を使用することで症状改善が得られる症例がみられるようになってきました。ABPMの患者様に対して、抗体製剤の効果について示すことが研究の意義です。</p> <p>【目的】 当院におけるアレルギー性気管支肺真菌症（ABPM）に対して、抗体製剤を使用した10名の方の特徴を示します。【方法】 2013年8月より2023年7月まで当院にてABPMと診断され抗体製剤（ゾレア、ヌーカラ、ファセンラ、デュピクセント、テゼスパイア）を投与された10名の方について後ろ向き観察研究を行いました。</p>

<福岡東医療センター臨床研究 オプトアウト ABPM>

【利用する試料・情報の種類】	アレルギー性気管支肺真菌症の診療に関する診療記録、臨床検査データ（血液）、診断用画像（胸部単純写真、胸部 CT）、呼吸機能データ、細菌学的検査所見（喀痰）
【個人情報の保護】	研究に際して個人が特定されないように、個人が特定できる情報は削除します。
【問い合わせ先】	独立行政法人 国立病院機構 福岡東医療センター 研究責任者： 呼吸器内科 中野 貴子 住所：〒811-3195 福岡県古賀市千鳥 1-1-1 電話番号：092-943-2331（代表）